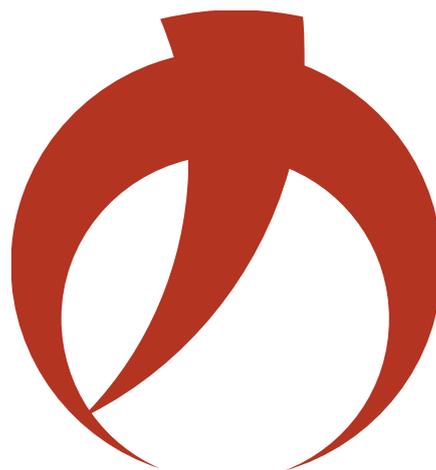
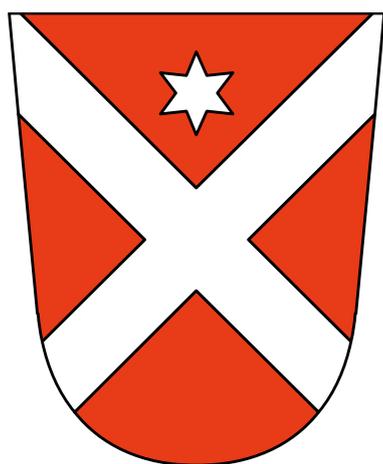

平成29年度
国際交流視察団報告書



平成29年12月 奈井江町

目 次

視察団派遣日程.....	1
視察団報告書.....	2～27
①奈井江町議会議員	森 岡 新 二
奈井江町議会議員	竹 森 毅
奈井江町健康ふれあい参事	小 澤 敏 博..... 2
②奈井江商業高校 1年生	中 村 真 緒..... 14
③奈井江中学校 3年生	奥 田 雄 大..... 19
④奈井江中学校 1年生	森 高 未 菜..... 24



ハウスヤルビ町国際交流視察団日程表

平成29年10月25日（水）～11月2日（木）：9日間

日 程	内 容	容
10/25(水)	11:15 出発式(役場) 14:25 新千歳空港発 16:10 中部国際空港着 コンフォートホテル中部国際空港(宿泊)	
10/26(木)	8:20 コンフォートホテル中部国際空港発 10:30 中部国際空港発 14:50 ヘルシンキ空港着 18:00 歓迎夕食会(リヒマキ市内ホテル)	(中村、奥田、森高) ホストファミリーとの交流 学校生活の体験
10/27(金)	8:45 リヒマキ地域保健センター(ハメ中央病院内)での研修 13:30 在フィンランド日本国大使館への表敬訪問	
10/28(土)	9:30 ハウスヤルビ町の郷土資料館視察 ハメーンリンナ市内での研修 18:30 ハウスヤルビ町長夫妻との夕食会	
10/29(日)	9:30 リヒマキ市内視察(狩猟博物館、ガラス美術館) 13:30 ヒュピンカー市内視察(鉄道博物館) 17:00 奈井江町に来町経験のある皆さんからの歓迎会 (ハウスヤルビ町議会議長からの歓迎挨拶)	
10/30(月)	9:00 ハウスヤルビ町役場庁舎での研修 11:00 ハウスヤルビ町内の各学校、幼稚園視察	
10/31(火)	9:00 トラーンズ・ファーム社視察 10:30 イラASTE・ヤ・ルキオ校視察(学校創立70周年記念式典に参加) 12:00 学校創立70周年記念公演 ミュージカル鑑賞 19:00 ハウスヤルビ町の皆さんとの夕食送別会	
11/1(水)	9:00 ヘルシンキ市内観光 ※全員 (チョコレートメーカー ファッツェル社訪問) 17:15 ヘルシンキ空港発	
11/2(木)	9:40 中部国際空港着 11:30 中部国際空港発 13:10 新千歳空港着 16:45 役場着	

【視察団員氏名】

団長 森岡新二 奈井江町議会議員
 団員 竹森 毅 奈井江町議会議員
 “ 小澤敏博 奈井江町役場健康ふれあい参事
 “ 中村真緒 奈井江商業高等学校1年生
 “ 奥田雄大 奈井江中学校3年生
 “ 森高未菜 奈井江中学校1年生

ハウスヤルビ町の行政運営等を視察して

奈井江町議会議員 森岡 新二（視察団団長）

奈井江町議会議員 竹森 毅

奈井江町健康ふれあい参事 小澤 敏博

ハウスヤルビ町との友好都市調印を締結してから、今年で 22 年を迎えました。また今年、フィンランド共和国にとって独立 100 年という記念すべき年であり、来年になるとハウスヤルビ町は開基 150 年という節目の年を迎え、すでに記念行事の準備を進めていると伺いました。

このような記念すべき時に、私たち視察団員 6 名が、フィンランドの広大な自然とともにハウスヤルビ町の行政全般にわたる取り組みについて、実際に肌で感じる貴重な体験、機会を与えていただいたことに改めて感謝申し上げます。

私たち 6 名は、平成 29 年 10 月 25 日 11 時 15 分、町長や議長を始め家族等関係者に見送られ奈井江町を出発し、中部国際空港に隣接するホテルで前泊。翌 26 日 10 時 30 分発の便でヘルシンキに向け出発。現地時間 14 時 50 分（日本時間 20 時 50 分、時差 6 時間）に無事、フィンランドに到着しました。

出発時の中部国際空港は快晴、ポカポカ陽気でしたが、ヘルシンキは例年より 2 週間ほど早い初雪で、かなり雪が積もっていました。北欧の冬の厳しさを感じながら、ハウスヤルビ町からの迎いのワゴン車に乗り、高速道路を走りながら、宿泊地のリヒマキ市内のホテルに向かいました。

車窓から眺める風景は、森と湖の国と言われるとおり、針葉樹林とシラカバ林が道路両脇に連なり、本当に自然豊かな国なんだという第一印象を持つと共に、所々に大きな工場や自動車メーカーの販売店等があり、盛んな産業の一面があることも感じとれました。

約 1 時間の移動後、リヒマキ市内のスキャンディック・ホテルに到着しました。18 時から同ホテルで、ヤーコラ元議長、ヘイニ・リスタヴァーラ理事長、ペッカ・マッティネン町長、マルク・トルティーラ教育長、ジョーナス・リヒ

マキ学校長、ホストファミリーの皆様による歓迎会が開かれ、和やかな雰囲気の中、温かく迎え入れていただきました。歓迎会終了後、子どもたち 3 人はそれぞれホームステイ先の家族とともに、各家庭に移動しました。

以下、今回の視察である「ハウスヤルビ町の医療・保健・介護の運営状況やこれからの取り組み」、「日本大使館への表敬訪問」などについて報告します。

◎フィンランドにおける医療の現状と

これからの取り組み

昨年、ハウスヤルビ町福祉課長のテイヤ・ソーラサロネンさんが来町した際、「これから取り組むフィンランドの健康、福祉に係る地方自治体改革は、

我が国にとって史上最大の改革となり、何十万人の自治体職員に影響がでるとともに国民全体の住民サービスも大きく変化する」「この改革によるフィンランド政府の最終目的は、2019年1月までに保健、福祉サービスなどを地方自治体から18の広域的な組織に委譲し、歳出予算の削減と国民が受けられるサービス内容の選択の幅を広げることを目指している」との説明を受けました。こうした事前の情報を得ながら、各公共施設の視察を始めました。



27日、8時45分より最初の訪問施設として、連合組織である、リヒマキ地域保健センター（ハメ中央病院内）を見学しました。このセンターは、リヒマキ市とハウスヤルビ町、ロッピ町の1市2町の合同で運営している病院です。構成市町合わせて約47千人の住民の医療を担っています。

このセンターには構成市町の医師が集中して診療にあたっており、急性期医療を中心に対応しています。高度医療が必要で対応できない場合は、大学病院など、さらに大きな医療機関との連携体制をとっています。

経営体制は、構成市町から選出された連合長がおり、その下に医師、看護師、事務の代表者がいます。連合組織は、口腔ケア、メンタル、経営（事務局）、食品衛生管理、施設安全管理の5つの部門に分かれ組織されています。病院経営については、常に赤字にならないよう対策を講じています。

外来患者数は年間延べ 87,823 人（2016 年実績）で、全ての患者を医師が診察、処置するのではなく、疾患レベルによっては看護師が診察し、投薬や処置できる体制をとっています。割合としては、医師の診察が 47%、看護師までの診察が 53%です。特別な資格を有する看護師自身が幅広く対応できるよう投薬



など、しっかり勉強して対応しています。センターのスタッフは、約 180 人で運営されています。

口腔ケアにも力を入れており、歯科治療を含めると年間延べ患者数は 97,799 人となります。入院体制については、病床数 60 床で、平均在院日数は 10 日と短く、在宅医療に力を入れながら対応しています。病棟体制は 1 病棟あたり医師 1 人、看護師 14 人です。

患者 1 人あたりの医療費（2015 年統計）は、国全体で 618 ユーロ（約 82 千円）ですが、ハウスヤルビ町は 589 ユーロ（約 78 千円）、リヒマキ市は国と同じ 618 ユーロ（約 82 千円）、ロツピ町は 649 ユーロ（約 86 千円）です。

今後の計画では、患者第一に運営を進めることを基本にしながら、少子高齢化にしっかり対応するとのことですが、ハウスヤルビ町でも出生数が 100 人から 70 人に減少しており、国全体でも、1947 年は 108 千人だった出生数が、2016 年には 58 千人に減少しています。

現在、インターネットの普及により、患者が自分に適した病院をネットで探す傾向にあり、自分で治療方法を見つけだす人も増えているそうです。また、患者自身の許可があれば、全国どこでも医師がインターネット上で投薬等の情報を検索できるよう国が対策を進めています。個人のクリニックで診療を受けても、総合病院との医療費に差が生じないように統一を図ろうとしています。

このセンターでは、基本的医療を提供しながら、もっと大きな町との連携を模索しており、4 年前から近隣 11 市町の連携による高度医療にも対応できる病院の建設を目指しています。各自治体の病院運営の方針の違いをどう調整、整理すべきかが今後の課題であるそうです。合わせて、より多くの人になるべく自宅で医療を受けられる在宅医療にも力を入れていきたいとのことでした。

政府による地方改革に対し、これからの政策を左右する選挙が、1～2年続きます。2018年1月には大統領選挙、その後には地方議会議員選挙があり、2019年3月には国会議員選挙が相次いで行われます。その結果にもよりますが、国全体を18地域に区分し、さらに地域を5つに分け、それぞれの地域に医師、ソーシャルワーカー等を集約配置する計画となっています。

この改革が実現した場合、医療政策はすべて国が決めることとなり、予算の抑制につながるようになります。政府は、国全体の予算削減を目的として、来年3月に法律を変える準備をしていますが、選挙での政治的対決の結果で、計画が変更になることも考えられます。

この改革の問題点は、都市に人口が集中する恐れがあること、地方がさらに衰退し、地元で医療が受けられなくなってしまうことが懸念されるということです。

◎在フィンランド日本大使館への表敬訪問

今回の視察では、在フィンランド日本大使館へ訪問することができました。訪問に際しては、事前にハウスヤルビ町のご配慮により、大使館に対して要請をしていただきました。改めて深く感謝いたします。

27日、13時30分、ヘルシンキ市内のビルの一角にある日本大使館に到着し、山本条太大使、齋藤昌子書記官に迎えていただきました。大使館という独特な雰囲気味わいながら、約1時間お話を伺うことができました。



山本大使は、大変物腰が柔らかく気さくな感じの方で、フィンランドの現状をわかりやすく丁寧に説明してくれました。

まず冒頭に奈井江町とハウスヤルビ町が22年にも亘って友好関係にあり、交流を深めていることにとっても感銘を受けているという言葉の頂くと共にフィンラ

ンド自体が日本との交流を大変重要視していることをお聞きしました。

フィンランドの人口は 550 万人（北海道とほぼ同じ）、面積は 33.8 万 k m²（日本よりやや小さい）。GDP は 2,392 億ドル（一人あたり 43,492 ドル）。経済成長率 1.9%、物価上昇率 0.4%、失業率 8.8%（2016 年）です。国の政治体制は共和制で、議会は完全比例代表制による一院制（定数 200 人）です。

今日のフィンランド情勢については、かつて福祉の先進国として、日本との交流を深めてきましたが、教育にも力を注いでいる国です。しかし、最近では経済情勢が厳しくなり、それに伴い国の財政もひっ迫してきています。財源を確保する一つの政策として、2 年前から社会保障改革を進めようとしています。

この国の特徴としては、改革に対し試行錯誤を繰り返しながら、こうしようと思ったことは透明感をもって実施し、もし失敗しても、すぐ次のことを考えるという国民性を持っています。また効率性を重視する施策を中心に考えています。



政府は、来年中に地方の新たな枠組みを作ろうとしています。311 の地方自治体が福祉、教育の拠点ですが、それを 18 の地域に広域化し、新たに地方議会を創ろうとしています。この改革で地方公務員 43 万人の削減を進めようとしており、そのことにより、都市と地方との公務員配置にさらに格差が生じる可能性が出てくるようです。

「ネウボラ」と言って、同じ保健師が 1 人の住民（保健師 1 人につき 200 人の住民を担当）の出産から育児まで、マンツーマンで支える制度がフィンランドにあります。この制度自体がどうなるのか、社会福祉の水準、福祉サービスの低下になるのではないかなどの疑問がありますが、これに対し政府は、社会福祉サービスの効率化をより進めることを目指していますが、これがどうなるのか国政選挙での争点となるそうです。

もう 1 つ政府が進めようとしているのは、歳入増のための国際競争力強化政策です。労働時間の増を図りたい狙いがあり、現在の年間労働時間 1,600 時間

が他の国と比較し少なく、成長率アップのため労働時間延長（年に3日分増やす）を進めるモデルケースを作成しているそうです。

いずれにしても、2018年の大統領選挙、2019年の国会議員選挙の結果が、これらの改革、政策の分かれ道になるであろうとのことでした。

また、国民性として福祉政策をどんどん変える気風があること、経済力は強く、欧州サプライチェーン（原材料や部品の調達から生産、物流を経て消費者に至るまでの一連の流れ）の要を握る技術国であり、生産額はあまり大きくはないが中核部品を製造し他国に輸出しています。EUの自由貿易体制を重要視し、安定的経済を求めています。このことを日本も注目しており、中部国際空港との繋がりを重視しています。背景にはトヨタ自動車との関連があるようです。フィンランド航空は、日本の4つの主要都市（週35便）、中国とは7つの都市との運行を始めました。

また、原子力発電は、電気供給量全体の18%を占めており、原子力安全委員会の取り組みは日本でも参考としているとのことでした。最終処分処理施設の処理方式は世界のトップクラスであるそうです。（地下400mの立て坑で使用済み核燃料を保管）

日本とフィンランド（バンター空港）間の年間ビザ発行は約54万人で、うち約11万人が他国の空港への経由地としています。就労のための長期滞在者は年間1,700～1,800人で、研究者、個人スポーツ選手が多く、芸術、文化の勉強を目的としている人も多いそうです。

◎ハウスヤルビ町の現状、まちづくりの取り組み

30日9時、1980年に建設されたというハウスヤルビ町役場に到着。町長を始め、幹部5名からハウスヤルビ町の現状とこれからのまちづくりについて説明をしていただきました。

出席されていた幹部のメンバーは、毎週月曜日に会議を行い、共通認識を



持ちながら行政を進めています。ハウスヤルビ町は町内を4つの地域に区分し、事務を集中的に行っています。

来年開基 150 年を迎え、9 月 17 日～23 日までの間、記念行事を行い、22 日には記念式典を行う予定であるとのこと。ハウスヤルビ町はフィンランドの 311 市町村のうち 119 番目に人口が多いまちです。失業率は 5.6%で国内では少ない方です。行政面積は約 400k m²、ヘルシンキ市から約 90 km。車で約 1 時間の距離にあります。ヘルシンキ市に近いので、これからも成長の可能性が高い町であるとのことでした。

ハウスヤルビ町のこれからのまちづくりのテーマは、「活発で成長するまちづくり」「住民一人ひとりを大切にするまちづくり」「住民みんなが一緒に頑張るまちづくり」を目指しています。

町の組織の仕組みは、最高決定機関が議会で選挙によって選ばれた 29 人の議員で構成されています。その下に 9 人で構成する理事会があり、理事は議会が選任します。理事会の役割は、議会で決定したことを具体的にまちづくりに反映するための協議機関です。その下に町長が位置付けられます。町長は議会が選任し、任期はありません。

行政組織として、人事や財政、住宅管理、衛生、バス等の交通対策、コンピュータ関係、建築・都市計画の部会があります。各部会は、議員 2 名以上と住民も加わって構成されています。部会ごとの行政テーマについて、意見を集約しながら進めているようです。

町は、少子高齢化が進んでいますが、総体の人口は減っていません。2030 年までの推計でも人口数は維持できる予想とのことでした。

子育て支援対策としては、町立の保育所が 4 か所と民間経営の施設があり、小学就学 1 年前の児童を対象としたプリスクールを設置（4 つの学校）し、預かり保育のような形で運営しています。小学校は 5 か所あり児童数約 700 人、中学校、高校の生徒数は、合わせて約 1,100 人です。

総合福祉施設レヒティマヤは重度の高齢者が入所していますが、高齢者がなるべく自宅で暮らせるよう対策を進めています。

国の政策で、自治体の全てを 18 区域に分ける新たな広域組織に組み入れ、保健、福祉サービスをここで実施した場合、町の予算が 5 割削減となる可能性があり、町の業務として残るのは教育や文化、建築、エネルギー、都市計画のみとなるそうです。

現在、学校の改築計画があり、学校の敷地内に幼稚園も建設し、運動場を含め 2020 年までに完成の予定です。2 階は別々の教室を作るのではなく、区切りのない大きなホールを作りたいとのことでした。また安全面に配慮し、幼稚園の運動場は、学校の運動場とは離して造るとのことです。駐車場も車の通行と子どもとの接点を避けるための配置や通学用オートバイ等の駐車スペースの確保等を考えており、建設にあたっては子どもたちの意見を十分反映し進めるとのことでした。

◎教育施設の状況

30 日、午前 11 時よりハウスヤルビ町の各学校、幼稚園を視察しました。

オイッティ小学校は、校舎が古く一部仮校舎も使って運営していました。建設計画までまだ期間がある古い校舎では、カビの問題があり、放置しておく子どもたちの健康に悪影響があるということで、空気浄化のため、植物の自然浄化装置を試験的に教室に設置していました。給食は全て食堂でのセルフサービス方式でした。

国の政策として難民を受け入れており、ハウスヤルビ町でもシリア出身者 4～5 人を受け入れ、先生と生徒がマンツーマンで授業していました。やはり、難民受け入れについては国の社会問題となっているようです。



リッティラ小学校は、授業の特徴として子どもの協調性を育成するため、グループに分かれ、一緒にまちをつくるシュミレーションを行っていました。

エスコー統合学校は、2015年に建設した新しい建物で、小中一貫校です。生徒数229人、先生は25人。プリスクールの受け入れも対応しています。トレーニングルームを完備し、普段はここを町民にも開放しているそうです。校舎は頑丈に造られていて、有事の際のシェルターとしても使うとのことでした。

障がい児の特別支援学級も設けられ、担当の先生は5人です。スクールバスの利用は4年生以上が5km以上、1～3年生は3km以上が対象です。また、教室内にスペースを設け、自由な空間や間仕切りを設けたパソコンデスクの配置など、将来のモデル教室を試験的に設置していましたが、通常の教室より先生の数が必要と感じられました。

食堂の横が運動ホールになっていましたが、壁が可動式になっており、必要に応じてオープンにするとステージとホールとして利用でき、とても効率的な印象でした。

キンコンクラン幼稚園は、6才までの保育を行っており、20人の子どもに対し10人のスタッフで対応しています。日中保育だけではなく夜間、泊りの保育も行っており、女性の社会進出が盛んな国であることから、利用者が増えているようです。施設は壁のなかに簡易ベッドが収納されており、スペースを有効に活用していました。

31日、午前10時30分からは、中高一貫校であるイラアステ・ヤルキオ学校の視察と学校創立70周年記念式典に参加しました。



学校施設で印象に残ったのは、技術室での専門技術を身に着けるための充実した設備です。工具や備品がしっかり備えてあり、3Dプリンターも配置されていました。また、各教室にはITを活用した授業のためのプロジェクター、電子黒板等が配置されており、日本より進んでいる印象がありました。

式典では、1947年の創立以来の変遷がスライドで紹介されました。

午後からは場所を移動し、70周年を記念した14～15才の中学生によるミュージカルを見学しました。

2年に1度のミュージカル上演であり、2週間で14回も上演するとのことでした。内容は全て中学生が考え企画しています。ミュージカルに出演したいた

めに他の市町から入学を希望する子どもたちも大勢いるそうです。



平日日中の上演にもかかわらず、たくさんの観客がいました。このミュージカルは、多くの町民に支えられ、20年続いているとのことでした。

◎トランス・ファーム会社を訪問

31日には、ハウスヤルビ町内にある、主にカレーの香辛料として使われる「クミン」を製造し、世界中に輸出している「トランス・ファーム社」を視察しました。



クミンは昔からフィンランドで栽培されており、夏の日照時間が長いことが、栽培に適しているとのこと町内の700軒の農家と契約して栽培しており、世界の輸出シェアは25%で、主にアメリカとインド、そして日本にも輸出されています。

2006年に工場を建設し、現在、規模拡大のため増築工事を進めていました。今年冬に完成予定で、工場内には法律上の義務化により、やはりシェルターが設置されていました。社長も含め、社員12人全てハウスヤルビ町出身者です。



◎おわりに

今回の視察で感じたことは、フィンランドも日本と同じく少子高齢化が進行し、従来の社会保障制度の継続が財政的に厳しくなっていることです。来年以降、大きな社会保障改革と地方自治体改革が実施される節目の時代を迎えているということを視察の先々で伺うことができました。

このような時でも、福祉国家として歩んできた「住民一人ひとりを大切にする心」を重んじながら、自治、行政を進めていく姿勢が強く感じられました。

医療の面では、広域的医療体制を目指しながら、高度医療から、かかりつけ医による基礎的医療まで、それぞれの医療体制、医療機関における役割の明確化を図り、地域全体で医療を確保しようとする方向性は、わが国が進めようとしている「地域医療構想」に類似しているものでした。

また、教育の面でも、2020年完成を目指す幼稚園との一体的な学校建設計画があります。この計画は、子どもたちの意見を十分反映しながら計画を進めていること、子どもたちが安全安心に学ぶことができるよう配慮した設計であることをお聞きし、子どもを含めた全ての住民がまちづくりに参画し行政を進めていることを実感しました。

人口数においては、ハウスヤルビ町の2030年までの推計では減少しない見通しを立てています。ヘルシンキ市に近い有利さもありますが、保健・医療・福祉の充実、そして教育環境をいかに整備充実しながら、定住対策に結び付けていくのが、これからの奈井江町のまちづくりに大いに参考となりました。

今回、10月26日～11月1日の7日間の滞在期間中、ハウスヤルビ町の皆様から本当に温かく、懇切丁寧に接していただきました。これまでの22年間の交流の成果であることを肌で感じたところであり、改めてハウスヤルビ町の皆様に深く感謝申し上げたいと思います。

来年、ハウスヤルビ町が開基150年という記念すべき年であり、ペッカ・マッティネン町長からは、記念イベントの際にはぜひ奈井江町からもお越しいただきたいとの、ご招待のお話いただいたところです。これからも両町の交流、絆がより深まり、末永く続いていくことを大いに期待し、視察の報告といたします。

最近のフィンランド情勢

(平成 29 年 10 月 27 日 日本大使館 訪問時資料より抜粋)

<p>政治</p>	<p>～連立政権崩壊の危機は脱したが、その行方は引き続き視界不良</p> <ul style="list-style-type: none">●連立の一画にあった真のフィンランド人党は、かつて反 EU・移民のポピュリスト政党。政権入り後は外相・国防相・社会保障相等を擁し与党協調路線をとったが、元来の支持者はこれを批判。6 月の党首選で反移民強硬派が勝利し一時連立崩壊の危機が生じたが、現実路線をとる主流派が党を離脱し閣内に残留、政治的安定の確保に向け断固たる決意を示した。●しかし、与党の議席は過半数を僅かに上回るまで減少。今後、各方面の批判が根強い社会保障や競争力強化の施策をシピラ首相がどこまで強力に推進できるのか予断を許さない。 <p>新制度下の地方議会選挙が 2018 年に円滑に実施できるかどうか当面の焦点</p> <ul style="list-style-type: none">●2018 年 1 月に大統領選挙、次の国会議員選挙は 2019 年春
<p>経済</p>	<p>～高成長は望めないが産業の多様化・多角化は堅実に進展</p> <ul style="list-style-type: none">●外需依存、高失業率、独特の労使関係などから、高成長は難しい。累積財政赤字は 2015 年以来、EU 警告値の対 GDP 比 6 割を超える。対露経済制裁に伴う貿易損失も甚大●産官学体制を充実させ、技術革新と社会システムへの応用、起業に積極的に取り組む。●シピラ首相の国際競争力強化策の直接の効果は微温的。労使関係の変化をもたらす契機となるなら実際の競争力強化につながる可能性がある。

<p style="text-align: center;">外 交 ・ 安全保障</p>	<p>～西側同盟（EU）の一員だが軍事同盟（NATO）には加わらず ヘルシンキ宣言以来の外交巧者の伝統は衰えず</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対露 1300km の陸上国境をいかに防護するかが常に最大の命題 ●NATO 加盟は選択肢だが加盟手続は進めない。高次の機会提供 パートナー始め NATO との連携は強化。徴兵制を維持し、有事 兵力 28 万人体制を構築中 ●2019 年まで 2 年間、北極評議会議長国を務める。環境保健、 気象、接続性、教育という優先分野を掲げる。 対露関係も睨み、首脳、閣僚の外交の場としての積極的活用を 狙う。 ●ロシアとは年 2 回の首脳往来を続け、昨年からは首相、閣僚な どハイレベルの接触も拡充 ●4 月の習近平主席来訪以降、多方面にわたり中国との実務的な 関係強化の動きが本格化
<p style="text-align: center;">日本との 二国間 関係</p>	<p>～日本との「天賦のパートナーシップ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2016 年 3 月、安倍首相は訪日中のニーニスト大統領と戦略的 パートナーシップを謳う共同声明を発出し、幅広い分野におけ る協力の推進を確認した。 ●以来、各界要人の往来等を通じ、両国関係は一層緊密化 ●2017 年 7 月、安倍首相はフィンランドを訪問、ニーニスト大 統領との間で戦略的パートナーシップ発展に向けた連携を確認 した。 <p>2019 年 5 月 24 日、両国は外交関係樹立 100 周年を迎える。</p>

ハウスマルビ町を訪問して

奈井江商業高校 1年生 中村 真緒

(ホストファミリー：カイサ・マリン)

【1日目】

たくさんの不安や緊張と僅かな期待を抱きながら北町長をはじめ、校長先生や教頭先生、担任の先生や私の両親、町の職員さんなど、たくさんの人に見送られた。「本当に私



が行って良いのだろうか...」と思いながら公用車に乗り、高速道路を通過して新千歳空港へ。搭乗手続きと手荷物検査を済ませると、いつの間にか少しずつ不安から解放され、安心した気がした。うとうとしながらも飛行機の中を過ごし、一時間半かけてようやく中部国際空港に着いた。

ホテルに荷物を置き、みんなで味噌カツを食べた。味噌の味が不思議だったが、肉との相性がベストマッチで美味しかった。食べ終わった後は、空港内にある駄菓子屋に行ったり、スマートフォンで音楽ゲームをして夜を過ごした。

【2日目】

朝から目覚まし時計に起こされたが、家よりは目覚めが良かった。着替えを済ませ、朝食へ。そこには、あらゆる航空会社からのCAさんたちが来ていた。朝ごはんは日本の味が体に染みて美味しかった。

その後、また搭乗手続きと手荷物検査を済ませ、そのまま飛行機へ。飛行機の中は映画が観れたり、色んな国の音楽が聴けるのだが、10時間のフライトだったので寝たくても眠れない。好きな映画が入ってなかったので代わりにパズルゲームに没頭して過ごした。機内食は味が濃かったり、軽食として柿ピーやアイスが出てきた。どれも選べないほど美味しかった。

日本から出て10時間後、ようやくヘルシンキ空港に到着。腕時計を見ると日

本時間午後 9 時。ヘルシンキでは 6 時間の時差があるので午後 3 時。さらにこの日は初雪だったので、「ああ、うん。死ぬな (笑)」なんてことを思いながらもロビー通路を通り入国審査へ。奇跡だったのか「団体」として通れた。

お出迎えには通訳のサカリさんやトルティーラ教育長さんが私たちを迎えてくれた。高速道路で歓迎会が行われるホテルに向かった。フィンランドの高速道路は速度規制が 100 km まで。事故を起こしそうで怖かった。1 時間かけてやっと歓迎会が行われるホテルへ着いた。部屋で制服に着替え、いざ、歓迎会へ。

自己紹介は緊張したせいか、上手く出来なかったがホストファミリーから話してくれて少し安心した。料理は美味しかったが、フィンランドの人は、「箸」を使わず、ナイフとフォークを使って食べるので、少し苦戦した。それに始まったのが午後 6 時。日本時間は深夜 2 時。夜食となってしまった。終わったのはその 2 時間後。ほぼ徹夜だった。体が浮いているような感覚だった。

歓迎会が終わった後、ホストファミリーのカイサさんと同い年のエレノラと一緒に家に向かった。シャワーに入り、寝巻に着替え、制服をしまってから長かった 2 日目を終えた。

【3 日目】

ぐっすりは眠れなかったが、2 日目の疲れはどこかに飛んでいた。

7 時前にエレノラに起こされ、着替えをしてからキッチンの後ろにあるテーブルへ行った。この日の朝食は「プーロ」というご飯に牛乳、バター、砂糖を加えたおかゆと紅茶だった。味は美味しいとは言えないが、ご飯というよりはスイーツのような感じだった。紅茶が入っているコップには、フィンランド生まれのキャラクター「ムーミン」の絵が描かれてあった。しかし、エレノラの情報だと、「イタリアではムーミンを知らない人が多いのだ」と言っていた。

この日は授業がない分、ミュージカルの練習をするため、荷物を持って 8 時半にエレノラと一緒に家を出た。雪道で少し足場が悪かったが、それでも 20 分かけてミュージカルが行われる施設へ行った。中は寒く、昼食前には寒すぎたのか体が震えた。昼食後は、特にやることもなく、ただ練習風景を見るだけだ

ったので、休憩場所でカメラの確認をしたり、音楽ゲームをしながら練習が終わるのを待った。

帰宅した後は特にやることが無く、買い物やまたミュージカルの練習で 1 人になってしまったので映画を見たり、PS4 で遊んだ。遊んだ後、カイサさんが家族写真を見せてくれた。親戚が多いのか、家族構成がわからなくなるほど大家族のような感じだった。

その後、日本語を教えて静かな 1 日を終えた。

【4 日目】



この日は休日。

昼にショッピングモールに行った。コストコみたいにとっても大きい食品売り場だった。特に、お菓子コーナーではグミやナッツ類、さらに「サルミアッキ」が量り売りされていた。子どもたちも入れるため、床にはお菓子がこぼれ落ちていた。帰ってきた後はまた PS4 をした。その後、「ファンタスティック・ビースト」を観ていたが、良いところで夕食の時間になってしまった。

夕食では箸の使い方を教えたが、フィンランドでは箸で食べる文化がないので苦戦していた。食べ終わった後はアイスホッケーの生中継を見た。ルールやどうやってやるのかを学べるのではないかと見てみたが、球が速すぎて目が追い付かなかった。

生中継を見た後、サウナに入った。フィンランドでは家に 1 台ついているそう。日本では温泉や銭湯に行かないと入れないので、いつでも入れるのが羨ましかった。サウナから上がった後、テレビでは、「ミリオネア」がやっていた。日本でもだいぶ前に放送していたので懐かしかった。

【5日目】

朝食後、何も事情を知らずにカイサさんに連れられ、エレノラと一緒に車で来た場所は、とても大きくて水も透明で綺麗で神秘的な湖。朝からみぞれが降っていて寒かったが、とても静かな場所で久しぶりに心の中でざわついていた気持ちが



落ち着いた気がした。景色もよく、残り少ない時間の中で一番良いものを見た気がした。

帰ってきた後は、昼食を食べ、ミュージカルの発表があるということでカイサさんと一緒に見に行った。二部構成のミュージカルだったが、全部フィンランド語だったので何と言っていたか分からなかったが、曲は今でも頭の中で流れている。

帰った後は、「サンタクロースになった少年」というサンタクロースの誕生秘話を描いたフィンランドの映画を見た。見終わった後、エレノラは「この映画、悲しい」と言っていた。フィンランドではクリスマス・イヴの日にイベントが開かれているそうだが、見に行けないので、今度来た時に見に行きたい。

【6日目】

たくさん動いて、たくさん笑って、たくさん楽しいことがあった。

この日は8時から学校だった。朝早くから学校なのは小学校以来だったので懐かしかった。1時間目と2時間目は数学だった。日本では学ばない応用問題のような問題が基本として教科書に載っており、解き方も黒板に書くのではなく、プロジェクターを使って教えていたのでどう解くかさっぱり分からなかった。3時間目は生物に関する授業だったがこれも分からず。4時間目は授業が入っておらず、1時間音楽ゲームをして食堂へ行った。ご飯はミュージカルの練習でできた友だちと一緒に英語でコミュニケーションをしながら食べた。

昼食後も授業が入っていなかったの
で、暇つぶしで近くのスーパーマーケ
ットへ。スナック菓子や缶詰、ろうそ
くまで、数えるのに時間がかかるほど
種類が豊富だった。学校に戻った後は
美術へ。美術は得意なのだが初めはイ
メージ通りに描けず苦戦した。しかし、
フィンランドに来て、感じた自然や景
色を紙に描いてみた。エレノラに見せたら、「なんでそんなにうまく描けるの!？」
と言われて少し嬉しかった。



学校が終わり、家に戻って少し映画を見た後、エレノラとボーイスカウトハ
ウスに行った。そこには元気な子どもたちの声。高校生が小さな子どもたち
に教えることは将来を教える立場として役に立つのかもしれないと感じた。ま
た家に帰った後は、映画の続きを見てこの日を終えた。

【7日目】

この日は特別な日だった。

9時から美術。美術ではインテリアに関することを学んだ。私は何もできな
かったが、少しでもとエレノラの作品の手伝いをした。

終わった後はいつもより早い昼食を食べ、学校の70周年記念祝賀会へ。学校
の歴史について話していたが、何と言っているか分からなかった。

終わった後はエレノラがミュージカルの発表があったので終わるまで待つこ
とになった。ホームステイも次の日が最後なので、終わった後は雪をかけた
りしながら楽しく家に戻った。映画の続きも最後まで見て、日本に戻る準備を
してから音楽を聴いて寝た。

【8日目】

とうとう長かったようで短かったこの日が来てしまった。

カイサさんやお父さん、エレノラに感謝の気持ちと別れを告げた。

フィンランドでできた友だちは離れることに泣いていたが、私は決して泣かなかった。またどこかで会えると信じて泣かずにバスに乗り、見送り場所である学校を離れた。

最初から最後まで何もできなかった自分を支えてくれた視察団のみんなやカイサさんご家族、学校のみんなや友だち、そして、私を視察団の 1 人として送り出してくれた学校の先生方、両親、先輩方や私の仲間たち、こんなチャンスを与えてくれた奈井江町には数えきれないほど感謝しています。

2 度と出来ないかもしれないこの経験を将来に繋げていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

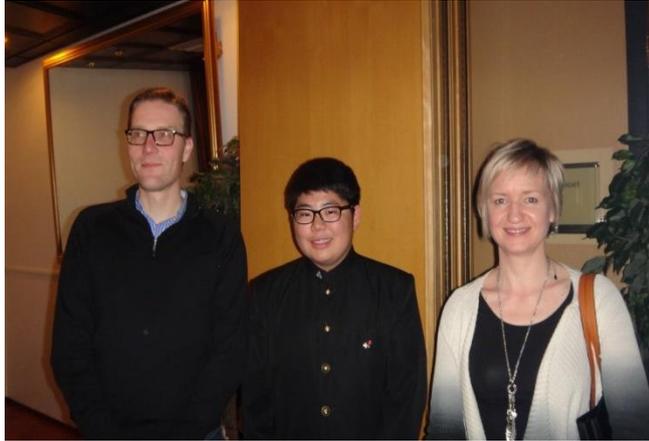
ハウスマルビ町を訪問して

奈井江中学校 3年生 奥田 雄大

(ホストファミリー：マリ・マーティン)

【1日目】

やっとこの日が来たかと、思っている素振りをして、実を言うとかなりドキドキしていた 10 月 25 日（水曜日）、役場。只々緊張している僕がいた。



中部国際空港に着いたときは、何が起こったのかよく分からなかった。それは、国際線の飛行機に乗る為の移動の宿泊は人生初だったからだ。夕食を食べる時も、風呂に入る時でも、謎の筋トレをトレーニングコーナーに行ってしまうときも、何をしても心臓がバクバクしていた。こんなに緊張しているのは、フィンランドにいるからかな？と考えた。熟考した結果、フィンランドに行っていないからだ気付くのに 2 時間かかった。そして、1 日目は終わった。しっかり熟睡することができなかった。

【2日目】

朝起きた時、自分がどこにいるか理解するのに、本当に 2 秒かかった。窓からの景色が、とても良かったのが印象的だった。海が見えた。朝食は、寝不足と緊張からか、風邪のときくらいしか食べられなかった。

空港の搭乗口に向かう前に余りにも心配になったので、パスポートを改めて確認した。あること確認するとパスポートを握りしめ搭乗口に向かった。飛行機はフィンランド航空の機体で CA さんは殆どがフィンランド人の方で、日本人は 2~3 人、うち男性の方が 1 人いた。飛行機は約 10 時間のフライトで意外と短く、映画の種類が豊富で少しテンションが上がった。機内食は、意外と美味しかった。そして着陸する時、これから何が起こるんだろうというワクワク感と、とてつもない尿意が自分の中でせめぎ合っていた。本当にギリギリだった。

そして、1つ目の試練、入国審査。何を聞かれるのだろうかとか色々不安なことが頭を過ったが、意外とあっさりと入国出来て焦り損をした。そこから、到着口に行くとトルティーラさん、バルカマさんが歓迎してくれた。外に出るとあたり一面雪景色で驚いた。どのぐらいの雪の量かという、丁度今の北海道ぐらい(11月28日現在)。スーツケースを引くのが大変だった。空港があるバンター市から約1時間で目的地のホテルに着いた。バス内で乗り物酔いが酷く、1時間、何があったか覚えていない。そこから、制服に着替え、歓迎パーティに出席した。自己紹介でとても緊張していて、何を言ったか覚えていない。料理はザ・海外と言ったメニューで、とても美味しかった。しかし、長旅にこってり肉料理は僕の胃にダイレクトヒットした。前の年までは、ホテルで皆、1泊しからのホームステイだったが、今年からは、初日から、皆ホームステイだったので少し不安だった。

ホームステイ先の家族は、とてもいい人だったが、皆身長が高く最初はとても怖かった。家に着いた時は、大移動や時差ボケでクタクタだったが、家の説明や少しの会話、そして日本からのお土産を渡し、私のフィンランド・デビュー初日は、こうして幕を閉じた。

【3日目】

朝は、現地時間で3時(日本時間朝の9時)に起きた。やはりかなりの時差ボケがすごかった。リアルに自分が何処にいるのか理解するのに2分かかった。朝ごはんはパンで、ビックリしたのが毎食コップが2つあり、1つは暖かい飲み物、もう1つは冷たい飲み物があった。そして、初めての学校に行った。

自分たちの教室といったものは無く、教科ごとに教室があった。チャイムが鳴ると教室を先生が開け授業が始まる。終わりは先生たち次第だが、大体時間は決まっている感じだった。各教室にPC、プロジェクター、実物投影機があった。教室には左右に沢山のコンセントがあった。教室の後ろにはシンクと水道があり、コーヒーを飲んでいた。

この日は、社会と英語と美術で、英語が長く、何をしているか聞いてみると班に1つのパソコンが渡され、携帯で自分の町のことを英語で紹介している動

画を撮り、編集してムービーを作り、発表すると言っていた。発表を見たが、町のスーパーへ行っている人もいたり、レベルが同年代の英語力や授業の内容ではないなと感じた。学校から帰ると、いつもおやつの時間があり、とてもビックリしました。こうして3日目が終わった。

【4日目】

この日も3時に起きた。自分がどこにいるのか理解するのに1分かかった。そして朝食を食べ、自分の部屋に戻るときに今日は学校が休みなので、リヒマキ市にある狩猟博物館に連れて行ってくれるということになり、私はテンションが上がった。なぜなら、シカなどの狩りや解体が好きだからだ。そして、いざ狩猟博物館に行くとやはり、いたく興奮した。まずは、とても躍動感あふれる動物たちの写真がたくさん飾られていた。そして奥に行くと、鳥が魚を取っている模型があった。とてもリアルだった。

そして、さらに奥に進むと色々な動物の剥製、毛皮などがあった。そのコーナーの半分がフィンランドで捕まったもの、残り半分はアフリカから送られてきた動物らしい。とても迫力があり、こんなのが近くにいると考えるとワクワクが止まらなかった。そして、さらに進むと色々な銃の製造方法や種類の模型



や映像があった。銃の中には、狩りをした物だけでなく、ロシアからフィンランドを救った銃もあった。

移動する通路の壁に、写生大会の写真が沢山あったが、どれも綺麗で可愛い動物の写真だった。癒しの時間だった。そして奥に進むと狩りの様子や解体が生々しく映像や模型で再現されていた。私が好きな内容だったのでさらにテンションが上がった。

狩猟博物館に別れを告げ、スーパーに向かった。そこで昼食をとった。日

本でいうマクドナルドの様なお店だ。サイダーは日本のものよりも甘く、ハンバーガーは日本のよりもとても美味しかった。そして買い物をして、家に帰り、夜ご飯の後、ホームステイ先のお子さんに雪遊びをしないかと言われ遊んだが、それが日本とは違った。雪投げは普通に楽しかった。そこから車に乗り敷地内をドリフトして遊んだ。とても怖かったが、とても楽しかった。その夜はぐっすり眠ることができた。

【5日目】

この日も朝は、現地時間で朝 3 時に目を覚ました。そしていつも通りになりつつあった生活がこの日だけ違った。「昼頃からコテージに行く」と、とてもビックリした。そして車に乗り込み、車を走らすこと約 1 時間ほどで着いた。



ここでフィンランドの伝統的な料理を振舞ってくれた。まず、沢山薪を燃やし煙が立たなく位まで燃やす。そこから網を乗せて、そこにパンとソーセージを乗せて焼き、焼けたら、パンにソーセージを挟み、マスタード、ケチャップ、ピクルスを挟んで食べる。とても美味だった。そして食べた後、少し遊び、おやつの時間を楽しんで帰った。

【6日目】

朝は、やはり現地時間 3 時に起きた。学校に行った。ホームステイ先のおばあちゃんが、学校帰り自分はどこに住んでいるとか、色々教えてくれた。

そしてその日の夜。またテンションが上がるイベントが!! なんと、ホストファミリーとするポーカー!! 本物のお金はかけずにチップで戦った。僕は元々、友達同士でするほどのポーカー好き。そのおかげかストレートができた。そして、その日は勝利を納め幕を閉じた。



【7日目】

毎回どおりの時間に朝目覚めた。この日は、学校の創立 70 周年で、学校が 12 時で終わり、そこからショッピングモールに行った。そこで、おやつの時間を取り、買い物について行った。ここでは、普通に電化製品のコーナーに 3D プリンターがあって驚いた。

そしてそのあと、ホストファミリーの方が夜ご飯に連れってくれた。今日が最後の夜だけど、どうだったか？ など、色々な話をして、最後の夜を楽しく過ごした。

【8日目】

いつも通り起床して、朝食を食べた。そこでホストファミリーのお母さんに別れを告げた。

学校に行き、お父さんに別れを告げ、学校に入った。そしてお兄ちゃんに別れを告げ、技術の授業を受けた。3D プリンターがあるなど桁が違い、最後まで驚かされた。そして、弟に別れを告げ、バスに乗って学校を後にした。涙は流さなかった。そして、大人たちと合流しチョコレート工場を見学し、空港に着き、フィンランドの地を後にした。

機内で一泊し、中部国際空港に着いた。日本に着いてホッとしたのか疲労感が凄かった。そして、千歳へ向かった。奈井江に着くまでの記憶があまりない。

ただ、色々な人が迎えてくれたことが、記憶にある。今回のハウスヤルビでの経験を活かし、生きていきたい。

ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江中学校 1年生 森高 未菜

(ホストファミリー： アンナ・カーリーナ・ヤーコラ)

【1日目】

朝からとても緊張して、心臓が止まりそうでした。ホームステイの人たちとうまく話せるかとか家族と9日間会えなくなるのを考えると不安や寂しさがありました。役場へ行き出発式をして千歳空港へ向かいました。



飛行機は中部国際空港に着きました。名古屋は北海道に比べたら暑くて驚きました。

ホテルに着き部屋に入って安心しました。部屋は1人ずつだったので静かで少し怖かったです。夕食は名古屋名物の味噌カツでした。初めて食べたけど、味噌とカツがマッチしていてとてもおいしかったです。中部国際空港はとても大きく色々なお店がありました。駄菓子屋さんがあり、中村さんと奥田さんと一緒に遊びに行きました。とても楽しかったです。そして部屋へ戻り1日があっという間に終わりました。

【2日目】

朝は、朝日が海に映りとても魅力的な風景でした。そして、中村さんと奥田さんと朝ごはんを食べに行きました。朝ごはんは、バイキングでした。ワッフルなどがありとても美味しかったです。外国人がとても多かったです。朝ごはんを食べ終わり中部国際空港へ向かいました。出国審査と荷物検査を終え、長い飛行機の旅が始まりました。10時間飛行機に揺られて、何をすればいいんだろうと考えました。座席にモニターがあり、それで映画や音楽などが観れてとても嬉しかったです。夜になっても全然寝れず、映画をずっと観ていました。

計 8 作の映画をみました。寝不足で頭が痛く、吐き気とめまいで私は死にそうでした。機内食は口に合わず残念でした。

長かったフライトは終わり、フィンランドに無事到着しました。まずは入国審査をしました。入国審査は初めてだったのでとても緊張しました。時差ボケと疲れで、私の身体はズタズタでした。それからずっと吐き気が襲っていました。それから 1 時間車に揺られ向かった先は、歓迎会を行うホテルです。

ホテルに入り、15 分ほどで私のホームステイをさせてもらう人が来ました。名前は、アンナ・カリーナ・ヤーコラさんという方でした。私が驚いたのは、元ハウスヤルビ町の議長で、とても偉い方だったということです。私はまだ吐き気が治ってなく、歓迎会の食事も食べられなく辛かったです。ヤーコラさんと孫のオッシーという中学 2 年生の男の子が、翻訳アプリで私にたくさん話しかけてくれました。優しくて温かい家族だなと思い、ひと安心できました。

日本の時刻で夜中の 2 時、フィンランドの時刻で夜の 8 時、その時ちょうど睡魔が襲ってきました。歓迎会が終わりホームステイ先の家に向かいました。私のために寝るための部屋を用意してくれました。とてもうれしかったです。そして、私の 2 日目が終わりました。

【3 日目】

朝起きた時間は、7 時くらいでした。朝ごはんを食べ、7 時 50 分くらいに学校へ行きました。学校は中高一貫の学校でした。不安だった学校も奥田さんと一緒だったので少し安心しました。中村さんは、高校なので会わなかったです。

1 時間目は、英語でした。先生には、「ノートに書くだけでいいよ」と言われました。授業を聞いていても何を言っているかわからないので、私は正直つまらなかったです。生徒はみんな私服でスマホなどを持っていました。化粧やピアスをしている生徒がいました。学校の中はとても綺麗で広かったです。

11 時くらいに昼ご飯を食べました。少し早いなと思いました。2 時くらいにオッシーが私のところまで来てくれて、車で帰りました。家に帰ってからは、おやつを食べたり、ピアノを弾いたりして遊んでいました。夜ご飯は、鶏肉の

リゾートでした。今まで食べたことのないリゾートだったので、不思議な味でした。でもおいしかったです。そして、現地時間夜7時30分で私は睡魔に襲われていました。そんな中でも私が持って行った日本のお土産をあげました。1つ1つ紹介してあげました。ヤーコラさんは侍とお相撲さんを知っていました。とても喜んでくれてうれしかったです。ここで眠さの限界が来てベットに入り、とてもよく寝れました。



【4日目】

この日はヤーコラさんとリヒマキ市の博物館とガラス美術館へ行きました。博物館へ行って一番印象に残っている動物は、ヒルビという動物です。日本語で言ったらヘラジカといわれています。とても迫力があり、ものすごいものを見られたと思います。ヒルビの足跡は、私の手の何倍もあったので、とても大きいイメージが浮かびました。色々な動物の剥製がありました。例えば、ライオン、狼、熊、狐など多くの種類がありました。

次に向かったのは、ガラス美術館です。ガラス美術館は、もともとガラス工場で、ガラス工場をリメイクして美術館にしたそうです。ガラスはとても綺麗で魅力的でした。

【5日目】

今日は、また学校でした。大変でしたが友だちができました。もう少しでお別れと考えるととても寂しくなりました。夜のフィンランド時刻6時くらいからお店で食事会が始まりました。そこで竹森さんたちに会いました。メニューは、サーモンのマリネ、サラダ、シカの肉、芋、ニンジンでした。デザートは、チョコケーキのいちごソースでとても美味しかったです。鹿のお肉を初めて食べました。柔らかくて臭みもなく美味しかったです。最初は、チョコケーキといちごソースは合わない…、そう思っていました。でも実際食べるとチョコケーキの甘さといちごソースの酸味が相性抜群でした。とても美味しかったです。夜は、8時ぐらいでもう眠くなってきたので、家に帰り速攻で寝てしまいました。

【6日目】

最後の学校の日。1時間目が国語でした。内容は、カエルが出てくる内容でした。意味は分からないけど、先生が一生懸命教えてくれました。頑張っとなにかを伝えようとしてくれていたのが、心にしみて嬉しかったです。



2時間目が音楽でした。音楽室は、奈井江と比べ物にならないくらい発達していました。楽器の量がすごかったです。私はウクレレを弾きました。音楽の先生が弾き方を教えてくれました。みんな一丸となって練習している姿は、言葉にならないほど素晴らしかったです。

お昼ご飯は、サーモンとイモのスープとアイスクリームでした。これが最後の給食でした。とてもおいしかったです。

4～5時間目は調理実習でした。作ったごはんは、カレーとサラダとごはんです。味はとても美味しかったです。でも、カレーが少し甘かったです。この調理実習で久しぶりにお米を食べました。久しぶりでとても美味しく感じました。

そして、授業は終わり家に帰りました。帰ってピアノを弾いて、オッシーのフルーツ教室について行きました。私は特別にピアノ教室を見学することができました。帰ってきて疲れていたので、ご飯を食べ、明日でお別れかなど思いながらベットに入りそのまま寝てしまいました。

【7日目】

お別れの日。私は朝から何をすればいいかわからなくドタバタしていました。なぜか学校に行くことになり、1時間授業を受け、9時にお別れをすることになりました。学校からのプレゼントやヤーコラさんからの手作りのぬいぐるみなどをもらいました。本当にうれしかったです。迎えのバスもきて、私は泣きそうになりました。でも涙をこらえ、とうとうお別れをしました。とても悲しい、また会いたい、などの気持ちがたくさんありました。

フィンランドへ行って学んだことがたくさんありました。改めて人の優しさや大切さがわかりました。

今回、視察団の一員でフィンランドへ行けて良かったです。そして、私に一生体験することのできないことをさせてくれた奈井江町や大変な私の面倒を見てくれたヤーコラさん家族に私はとても感謝しています。今度またこのような機会があれば、参加してみたいと思っています。本当にこのような機会を作っていただきありがとうございました。

